

伊藤敏雄（編）

石刻史料と史料批判による魏晉南北朝史研究

平成27（2015）年3月

平成22～26（2010～2014）年度科学研究費補助金（基盤研究(A)）

「石刻史料と史料批判による魏晉南北朝史の基本問題の再検討」

（課題番号 22242022）成果報告書

研究代表者 伊藤敏雄（大阪教育大学・教授）

は し が き

伊 藤 敏 雄

私たちは、平成22（2010）年度に「石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史の基本問題の再検討」という研究課題（研究代表者：伊藤敏雄）で、科学研究費補助金基盤研究(A)に採択されて以来、魏晋南北朝史に関する基本問題（貴族制・官僚制・基層社会・民族問題など）の再検討を意図しながら、近年陸続と増加している新出の石刻史料とともに、既出の石刻史料のデータ・ベース化を図りながら、石刻史料及び文献史料の史料批判的研究によって研究を推進してきました。

その研究の一環として墓誌などの石刻史料について、中国で実見・調査を実施し、中国側の御協力を得て、予期した以上の成果を挙げることができ、それらを利用した研究を進めることもできました。但し、実見・調査の成果の中には、中国側の公表を待たないと公表できないものもありました。

そこで、2012年9月16日（日）に海外共同研究者の張銘心氏（中央民族大学）らを招き、本課題研究の中間成果報告会として、国際学術シンポジウム「墓誌を通じた魏晋南北朝史研究の新たな可能性」を開催しました。佐川英治（東京大学）に、本課題研究の海外調査の概要とその成果を整理し、研究の展望を示していただくとともに、張銘心氏に墓誌研究の基本的問題にあたる墓誌の伝播の状況を本格的に呈示していただきました。また、王素氏（故宫博物院、代読）に新出の大唐西市博物館蔵北朝墓誌（当時未刊）のうち9点を紹介していただき、李鴻賓氏（中央民族大学）に同墓誌の「北周是云傭及夫人賀拔定妃墓誌」をもとに是云氏と北魏元氏や賀拔氏との関係を明らかにしていただき、墓誌を用いた魏晋南北朝史研究の可能性を示しました。その成果等をもとに、2013年5月に中間成果報告書『墓誌を通じた魏晋南北朝史研究の新たな可能性』を刊行しました。

以上の成果等を踏まえて研究を継続しながら、2013年8月末には河北省・河南省の鄴地区で石刻史料を実見・調査し、2014年9月15日（日）に最終年度の研究成果報告会として、国際学術シンポジウム「石刻史料から見た魏晋南北朝史——北朝史を中心に——」を開催しました。研究成果の一端として、佐川英治は墓誌を用いて六鎮の乱を見直し、佐藤智水（龍谷大学）は石刻史料をもとに6世紀前半青齊地方における仏教の展開とその特徴を明らかにし、窪添慶文（東洋文庫）は墓誌を用いて北魏後期の官僚の遷転過程を分析し、北魏後期の官僚の遷転がシステムチックであったことを明示しました。また、葉煒氏（北京大学）に新出墓誌を多数含む墨香閣蔵北朝墓誌とその価値を紹介していただく一方、海外共同研究者の朴漢濟氏（ソウル大学校名誉教授）には、石刻史料をもとに魏晋南北朝時代における「胡」の問題について講演いただきました。

このシンポジウムの報告や講演をもととする北朝関係の論考を中心にしながら、川合安

(東北大学)の南朝墓誌に関する研究整理、研究協力者の室山留美子(大阪市立大学都市文化研究センター)の石刻史料の史料批判的研究、永田拓治(阪南大学)の漢晋史研究における文献史料の史料批判的研究の可能性に関する論考を加えて、研究成果報告書を刊行します。

本研究成果報告書は、本研究課題の研究成果の一部ですが、魏晋南北朝史研究と石刻史料研究・史料批判的研究の更なる進展と、魏晋南北朝史の基本問題の再検討に裨益することになれば幸甚です。

目 次

はしがき	伊藤 敏雄	
北魏末の北辺社会と六鎮の乱——楊鈞と墓誌韓買墓誌——	佐川 英治	1
北魏時代の山東石像銘史料の探索と整理	佐藤 智水	2 1
北魏後期の官僚の遷転	窪添 慶文	3 4
略谈墨香阁藏北朝墓志的史料价值	叶 炜	8 3
魏晋南北朝时期石刻资料与“胡”——与《魏书》的叙述作比较——	朴 汉济	9 5
南朝墓誌覚書	川合 安	1 1 5
「考古資料」と「文献史料」のあいだ	室山留美子	1 2 6
漢晋史研究における文献史料の可能性——人物伝を中心に——	永田 拓治	1 4 7